

3. レポートを書く

レポート・論文の材料となる

「信頼できる情報」を収集したうえで、書き始めましょう

- ・基本の型
- ・アウトラインの作成
- ・レポート・論文を書くときの決まり
- ・参考にした情報を紹介する
- ・剽竊の禁止

基本の型～レポート・論文の構成

序論

- ・ レポート・論文を書く動機
- ・ 問題提起
- ・ 研究方法

本論

- ・ 結論を導くための根拠や具体例
- ・ それらから導いた自分自身の考察

- ・ 実験結果、アンケート調査結果などのデータ
- ・ 先行研究
- ・ 社会的通念、一般常識

→ 文章の論理展開に矛盾・飛躍がないよう要注意

結論

- ・ 本論の要点・まとめ（特に自分が主張したいこと）
- ・ 序論（問題提起）に対応する答えとなる部分
- ・ 今後の展望や課題

文章を書き始める前に、レポートの設計図（＝アウトライン）を作成しておくと便利！

+

参考文献

アウトラインの作成

アウトライン＝レポートの設計図

(アウトライン例)

1 はじめに（序論）

- ・なぜ東日本大震災では海外から派遣された救助犬と比べて日本の救助犬は少なかったのか。（問題提起）
- ・統計調査や各分野の主要文献を読み解き、解明する。（方法）

2 事実の分析と考察（本論）

- ・このレポートにおける「救助犬」の定義（定義）
- ・日本で救助犬が活躍するようになった歴史と背景（事実の紹介）
- ・海外における救助犬の事例・制度（先行研究）
- ・日本における救助犬の事例・制度（先行研究）
- ・以上を踏まえた考察（自分の意見）

3 まとめ（結論）

- ・救助犬が少なかった理由とその対応策の提案

4 参考文献

- ・引用した文献、参考にした文献の書誌情報を記載

(参考) 実際に「論文」を読んでみよう【先輩の論文を読む】

「横浜市立大学学生論集」を探す



レポート・論文を書くときの決まり

レポート・論文は、指示
(授業での指示書や雑誌の投稿規程など)を厳守！

- ・複数の解釈がある表現を避ける。
必要に応じて定義付けも！
- ・段落分けを心がける。段落の冒頭は一字下げて書きはじめる。
- ・である調で書く。
- ・敬語・略語は使わない。
- ・数字・記号は使い方や表記を統一する。

Q：どこがおかしいでしょうか？

日本における災害救助犬について

2011年3月11日に起きた東日本大震災では、災害救助犬が活躍したが、外務省の調査によると、国内で出動できた頭数は、海外から派遣された41頭と比較して少なかったと言われている。なぜ国内で起きた災害にも関わらず、日本の災害救助犬の数が下回ったのだろうか。

このレポートでは、その理由について、横井地氏がなされた調査内容を中心に、統計調査、事例調査等を比較検討し、その解決策について検討することにした。

(解答)

Q：どこがおかしいでしょうか？

日本における災害救助犬について

段落の冒頭が一字下げになっていない

2011年3月11日に起きた東日本大震災では、災害救助犬が活躍したが、外務省の調査によると、国内で出動できた頭数は、海外から派遣された41頭と比較して少なかったと言われている。なぜ国内で起きた災害にも関わらず、日本の災害救助犬の数が下回ったのだろうか。
「なさった」は敬語
では、その理由について、横井地氏がなさった調査内容を中心に、統計調査、事例調査等を比較検討し、その解決策について検討することにしました。
文末は「である」調にする

A：修正してみましょう

日本における災害救助犬について

2011年3月11日に起きた東日本大震災では、災害救助犬が活躍したが、外務省の調査によると、国内で出動できた頭数は、海外から派遣された41頭と比較して少なかったと言われている。なぜ国内で起きた災害にも関わらず、日本の災害救助犬の数が下回ったのだろうか。

このレポートでは、その理由について、横井地氏が行った調査内容を中心に、統計調査、事例調査等を比較検討し、その解決策について検討することにした。